

Letter for Members No. 15 2004

Japan
Prosthodontic
Society

日本補綴歯科学会

Japan Prosthodontic Society

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jpds/>

発行人 大山 喬史 編集 広報委員会

事務局 〒170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9 (財)口腔保健協会
Tel 03-3947-8891 Fax 03-3947-8341

平成16年12月10日発行

第112回日本補綴歯科学会総会報告

平成16年10月15日開催された日本補綴歯科学会総会において「平成17・18年度役員人事」および「平成17年度事業計画案」が承認された。

平成17・18年度日本補綴歯科学会役員人事

(任期：平成17年4月1日～平成19年3月31日)

会長	赤川安正 (広大院)
副会長 (次期会長)	平井敏博 (北医大)
副会長	井上 宏 (大歯大)
理事・庶務担当	矢谷博文 (阪大院)
理事・学術担当	佐々木啓一 (東北大院)
理事・編集担当	志賀 博 (日歯大)
理事・会計担当	森戸光彦 (鶴見大)
理事・国際渉外委員長	古谷野 潔 (九大院)
理事・用語検討委員長	五十嵐順正 (松歯大)
理事・医療問題検討委員長	市川哲雄 (徳大院)
理事・会則等検討委員長	田中貴信 (愛院大)
理事・広報委員長	前田芳信 (阪大院)
理事・法人運営委員長	平井敏博 (北医大)
理事・教育問題検討委員長 (改組)	櫻井 薫 (東歯大)
理事・生涯学習検討委員長	清野和夫 (奥羽大)
理事・認定審議会委員長	古屋良一 (昭和大)
理事・社会連携委員長 (新設)	冲本公繪 (九大院)
理事・専門医制度検討委員長 (新設)	野村修一 (新大院)
理事・ガイドライン作成委員長 (新設)	寺田善博 (九大院)
理事・社会保険委員長 (新設)	福島俊士 (鶴見大)
理事 (特命事項, 新設)	長岡英一 (鹿大院)

監事	森田修己 (日歯大新潟)
監事 (税理士)	未 定
東北・北海道支部長	渡辺 誠 (東北大院)
関越支部長	小出 馨 (日歯大新潟)
東関東支部長	大川周治 (明海大)
東京支部長	石上友彦 (日 大)
西関東支部長	藤田忠寛 (神歯大)
東海支部長	田中貴信 (愛院大)
関西支部長	江藤隆徳 (大歯大)
中国・四国支部長	中尾勝彦 (広島県開業)
九州支部長	田中卓男 (鹿大院)

平成17年度事業計画案

社団法人日本補綴歯科学会 (予定) としては、高い公益性をもち、社会のニーズに応えるため、歯科医療全般の向上を目指し、専門分野である歯科補綴学の学理およびその応用についての研究を行うとともに、国内外の関連学会との連携協力を図り、医療人としての資質を高めることにより、国民の健康福祉に貢献することとして、以下の事業を実施する。

1. 学術大会、講演会の開催
 - (1) 第113回学術大会
日時：平成17年5月14日(土)、15日(日)
場所：グランキューブ大阪 (大阪国際会議場) (大阪市)
 - (2) 第114回学術大会
日時：平成17年10月1日(土)、2日(日)
場所：朱鷺メッセ (新潟市)
 - (3) 支部学術大会
全国9支部において開催予定。
 - (4) 市民公開講座
全国9支部において開催予定。
 - (5) 講演会等事業の開催

- 予見し難い講演会等の事業の開催に対応、
2. 学会誌その他の刊行物の発行
- (1) 学会誌
- ①和文誌（第49巻2～5号，第50巻1号）5回
- ②英文誌（第4巻1号）1回
- ③学術大会抄録集（第113，114回分）2回
3. 認定医等の認定
認定医，指導医，認定研修機関の新規および更新。
4. 表彰
学会論文賞，特定推進研究論文賞，中堅優秀論文賞，奨励論文賞，特別功労賞の表彰を予定。
5. 国際交流事業
- (1) Greater New York Academy of Prosthodontics (GNYAP)
第2回 Joint Meeting（2007年）開催の検討。
- (2) アジア補綴学会
第4回学術大会2005年8月9～11日（バンコク）開催予定。
- (3) International College of Prosthodontics (ICP)
第11回学術大会2005年5月25～28日（ギリシャのクレタ島）開催予定。
6. 歯科医療の向上を図るための事業
- (1) 生涯学習公開セミナーの開催
全国9支部において開催予定。
- (2) 平成18年度の歯科研修医制度の義務化に向け、
- ①補綴臨床研修を実施する際の診療基準および研修基準を作成し，厚生労働省に提示。
- ②学部卒業時における実施レベルの向上のために，平成16年度の調査結果を踏まえ，今後の実技教育の充実について検討。
- (3) 補綴学関連の医療の進歩と一般歯科医療へ

の普及を前提とし，国際標準に照らした「病名と症型分類」最終案の作成。

7. 広報事業

- (1) ニュースレター4～5回の発行を予定
- (2) ホームページ更新予定
- (3) 国際的なPRのため，「Dentistry in Japan」に学会活動に関する記事を掲載予定。

8. 社団法人の設立

社団法人としての組織の整備および規程の制定など，諸課題についての体制を整備。

9. 会費の値上げ

現行10,000円→13,000円。

10. 学術大会の年1回化と支部事業の充実の検討

平成18年度から地域における事業の充実を図り，地元との関係の強化方策を検討。

11. 英文誌の年4回発行の検討

PRPの国際的な評価獲得に向け，年4回発行を平成18年度実施予定。

12. その他

(1) 新委員会の設置

法人化担当委員会→法人運営委員会，専門医制度検討委員会，ガイドライン作成委員会，社会連携委員会，社会保険委員会。

(2) 委員会の開催

各委員会はそれぞれの課題について検討するため年1～5回開催予定。

(3) 賛助会員

平成17年度は46社を予定。

(4) 文部科学省へ「特定公益増進法人」の認可申請を予定。

第113回学術大会はすべてオンラインで

第113回学術大会は演題応募，抄録送付，学会参加登録，宿泊予約など学術大会に関連するものはオンラインで行われることになった。これにより従来は学術大会の2カ月前で締め切られていた事前登録は約3週間前（平成17年4月22日（金）12：00（時間厳守））まで可能となった。

さらに口演はすべてパソコン持ち込みによる単写発表形式で，従来とは大幅に変更されている。

☎ 演題締め切りは平成17年1月18日（火）17：00（時間厳守）であるが，締め切り前に限り抄録原稿の差し換えは自由である。

申し込みに際しては第113回学術大会ホームページからダウンロードした「抄録雛型ファイル」を使用することが前提である。また大会抄録集はホームページ上で公開され，冊子体の抄

Happy & Heartful Communication

MORITA

心身ともに健やかに……
これがモリタの願いです

株式会社モリタ 株式会社モリタ製作所 株式会社モリタ東京製作所
www.dental-plaza.com

録集は当日受け取りとなる。

詳細は第 113 回日本補綴歯科学会学術大会ホームページ (<http://www.dent.osaka-u.ac.jp/~prost2/113.jpds/>) を参照。また日本補綴歯科学会ホームページ (<http://www.soc.nii.ac.jp/jpds/>) からリンク可能である。

PRP は電子ジャーナル化へ

PRP (Prosthetic Research and Practice) は平成 18 年より年 4 回発行される予定である。すでに発刊されたものも含み、材料技術書誌情報(表題, 著者, 所属, 引用文献情報等)は会員・非会員を問わず無料で閲覧可能であり、全文閲覧用(PDF)については会員(全文閲覧用 ID 取得)のみ無料で、また所定の手続きをし ID を取得した非会員が閲覧可能である。

以上の全面運用をめざし、当面は試験運用することが編集委員会から報告された。

第 112 回学術大会報告

第 112 回日本補綴歯科学会学術大会は、豊田實大会長(神奈川歯科大学)のもと、平成 16 年 10 月 15 日(金)~17 日(日)に横須賀市の“横須賀芸術劇場・横須賀市産業交流プラザ”で開催された。「新しい歯科補綴のパラダイム—生体との接点を求めて—」をメインテーマとし、143 題の研究発表と多数の企画講演が行われた。

特別講演 I 「日本の常識はなぜ世界に通用しないのか?—臨床医学研究の観点から—」



講演される森實先生

センセーショナルなタイトルで行われた特別講演 I の森實敏夫先生(神奈川歯科大学内科)の講演内容を一行で言い表すと「臨床医はもっと疫学研究をすべきである」ということであった。しかし、レベルの高い臨床試験、その他の臨床疫学研究を立案、記述、実行できる医師はほとんどいないのが現状であると切り出された。臨床医学研究の方法論については、臨床医学研究デザインについて、臨床疫学、医学統計などの面から確立されたものがあるが、それらの知識をもたずに、自己の経験と先輩からの指導に従って、症例対照研究などの後ろ向き研究が多く行われていることを指

摘された。特に日米を比較した場合、治療法の開発に不可欠なランダム化比較試験が日本ではきわめて少なく、日本における診療ガイドラインは欧米人を対象に行われた研究に基づいて作成せざるを得ない現実があることも示された。その背景として、日本では「論理的、一貫性のある主張をすると人を怒らせてしまうか、未熟者というレッテルを貼られてしまう」というように、論理的思考が十分にできる環境が成熟していないことに加えて、日本人は確率論的思考が苦手なためと分析された。

クリニカルクエスションからリサーチクエスションを作ることが大事で、臨床に本当に有効な結果を得るためには、ランダム化比較試験をもっと重視すべきであり、得られたデータから臨床にインパクトのある結果、すなわち患者にとって本当のベネフィットは確率論的な考え方で導き出されると述べられた。

(広報 沖本)

特別講演 II (国際セッション) 「Current Occlusion Concepts : Where Is the Science?」

Dr. Terry T. Tanaka (Clinical Professor, University of South California) の特別講演は、長旅の疲れや時差など微塵も感じさせない、満面の笑みで始まった。非常に盛りだくさんで、今日の咬合のコンセプトの解説に加え、ブラキシズムや顎関節症の最新の治療方針、基礎的研究結果、症例も紹介された。



Prof. Tanaka(左)と古谷野国際渉外委員長(右)

内容の概略は、① 1962 年の Stuart により発表されたオリジナルの Centric Relation (CR) と現在 (GPT 6 : 米国版歯科補綴学用語集第 6 版) の CR の定義 (CR=Centric Occlusion : CO) の相違、Myocentric Position (Jankelson), Musculoskeletal Stable Position (Tanaka & Okesson) などのコンセプトとの関係、② Stuart のいう CR-CO slide が引き起こすブラキシズムと Sessle ら (2002) のいう CNS disorder としてのブラキ

シズムの鑑別の現状, ③ Zarb の Risk-benefit, Cost-benefit の理念と Over treatment への警鐘, そこでブラキシズムの治療はスプリント療法などの可逆的療法から行われるべきであること, 犬歯の咬耗の結果生じる Balancing side の咬合誘導は削合するのではなく, 咬耗したガイドの再建で対応すべきこと, ④ ブラキシズムと Abfraction の関係, ⑤ Centric Relation 記録への Vapocoolant (Ethyl chloride) spray の応用, ⑥ Hinge axis の位置は普遍ではなく変化すること, ⑦ 咬合位を普遍なものとして決定することは困難で, 患者の Adaptive range (適応範囲) に入れることが重要, ⑧ 歯髄は咬合負荷に対して歯根膜の2倍の感度を有すること (Levy, 2000), ⑨ 外耳孔に指を入れて関節雑音を触診すると雑音を誘発することがあるので必ず聴診器を使うこと, ⑩ 前歯部唇側の咬耗から疑われる Abnormal chewing pattern があること, 等々あり, 疼痛の持続した顎関節の解剖ビデオも供覧され, あっという間の80分であった。

講演時間の関係から簡単に話されたところもあり, もっと時間をかけて聞きたい内容も多かったが, 明日からの教育と臨床に役立つたくさんの示唆をいただいた。プレゼンテーションの技法もアメリカ的一面がみえて, 大変参考になった。

(津賀一弘 広大院)

特別講演Ⅲ (研究教育研修) 「健康的な睡眠とは」

研究教育研修の枠で行われた特別講演Ⅲは, 講師高橋清久先生 (藍野大学学長) と座長小林義典先生 (日歯大) により, 睡眠をテーマにして講演が行われた。

睡眠は, 疲労回復やストレス解消のみならず, 生活習慣病やうつ病の予防などの点においても重要な機能をはたしており, 厚生労働省が策定した「健康プロジェクト21」でもとりあげられているという導入ではじまった。不眠とうつ病の関連については, 不眠症の人は10.2%で, その40%がうつ病であること, 不眠が1年以上続くと, うつ病の発症率は39.8倍になる, などのデータがあること, また, 睡眠不足は社会の効率と安全をも脅かしており, 睡眠不足によって産業事故の発生率は約8倍, 病欠は2倍, 入院日数は2倍, 交通事故は3.5~4.5倍にもなるという統計結果があることなど, 社会の健康のためにも睡眠は重要なのであると述べられた。

健康な睡眠の指標としては,

1. 適度な睡眠潜時 (ねつきがいいか)
2. 十分量の徐波睡眠
3. 少ない中途覚醒
4. 適度なレム睡眠 (レム潜時90~120分)
5. 適度な睡眠時間 (平均6.5~7.4時間)
6. 日中の高い活動性 (眠気がないこと)

があり, 講演では6を最も重要な指標としていた。

不眠で最も多いのは精神生理性不眠であり, 過敏性格の人が一過性の不眠に対して過度の不安に陥り, そのストレスで不眠となり, それによりますます不安となって不眠が持続するというパターンで, これには睡眠制限療法が有効であること, 高齢者の場合は加齢現象として中途覚醒が多くなり, 深部睡眠が短くなる傾向がみられるが, これを気にしすぎて不眠となる場合が多く, これには短時間の昼寝により日中の活動性をあげることが有効であること, これに対し, 睡眠リズム障害性の不眠は遺伝子レベルで問題があることが最近わかってきており, 治療法としては高照度の光を浴びる光療法や就寝前2~3時間前のメラトニン投与などがあること, このほか興味深い話題がもりだくさんであった。最後に講演では「睡眠学の確立」を提唱された。睡眠学とは, いまだ十分解明されているとはいえない睡眠のメカニズムなどについて, 基礎的研究を行う睡眠科学と, 臨床応用について研究する睡眠臨床医・歯・薬学および睡眠に関連した社会問題を研究する睡眠社会学 (たとえば夜型社会学など) の3つの柱で構成されており, それぞれが連携し合って進歩を図るものである。

このところ, 日本補綴歯科学会においてもいびきや睡眠時無呼吸症候群などに関連したテーマの研究発表がしばしば行われるようになってきたが, さらに進めて睡眠学の枠内で歯科補綴学がどのような寄与をできるのかを検討する時期がきているのかもしれない。そうすると, もしかしたら咀嚼や咬合などと同じ頻度と重要性をもって「睡眠」というキーワードが取り扱われるようになる日がくるのかもしれない。

(松尾浩一 九大院)

シンポジウムⅠ 「補綴実技教育の評価を考える」

シンポジウムⅠは, 「補綴実技教育の評価を考える」のテーマで, 座長に皆木省吾先生 (岡大院), 講師に會田雅啓先生 (日大松戸), 鱒見進一先生 (九歯大), 河野文昭先生 (徳大) の3名で

行われた。

まず座長の皆木先生が、今回のシンポジウムの意義について、歯科医療に対する国民の要求の変化に対応すべく、歯科医療だけでなく歯科医学教育にも変化が必要である。その検証のために適切な教育評価を行うことが重要であり、歯科補綴学領域における補綴実技能力を評価することは、知識の確認のみならず、精神運動領域における達成度の判定としても重要であると示された。また、今回のシンポジウムに先立って、実技教育検討委員会の講師の先生方に、「クラウン・ブリッジ」、「全部床義歯」、「部分床義歯」の分野における実技評価トライアルが依頼され、その実施結果を踏まえての報告である旨報告された。

続いて、3名の先生方は、それぞれ実技評価トライアルの課題選択理由について詳しく説明された後、課題の実施内容、評価基準、評価結果、問題点および今後の展望について報告された。

まず、クラウン・ブリッジ分野の立場から會田雅啓先生が、課題内容は「ブリッジの支台歯形成」であり、評価項目はクリアランス量、平行性、辺縁歯肉の損傷などであると説明された。トライアルにおける問題点として、評価者間の統一性、平行性やクリアランス量の確認方法を指摘され、その改善方法として診断用機器の導入なども考えられることを報告された。

次に、全部床義歯の立場から鱒見進一先生が、課題内容は「咬合採得」であり、評価項目は、基準点の位置、基準平面との平行性、顎間距離、標準線の記入、上下咬合床の安定性などであると説明された。トライアルにおける問題点として、試験環境やファントムなど準備に関することや、結果の複雑性に対する客観的評価の困難性を指摘され、その改善方法としてファントムの改良や緻密な評価基準が考えられることを報告された。

最後に、部分床義歯の立場から河野文昭先生が、課題内容は「義歯の設計」であり、評価項目は研究模型のサベイング、口腔診断に従った義歯の設計、技工指示書の作製などであると説明された。トライアルにおける問題点として、評価者間の統一性、設計に関する大学の独自性を指摘され、その改善方法として設計に関してはローカルルールも考えられることを報告された。

ディスカッションでは、会場からも多数の質問があり活発な討議がなされたが、3つの分野すべてにおいて、評価基準や評価方法など改良すべき点はあるものの、課題内容はおおむね適切であったことが確認された。

(広報 瀨野)

シンポジウムII 「再生医療と歯科補綴学の接点」

座長の魚島勝美先生（新大）から、今回のシンポジウムの位置づけ、意義などのお話があり、シンポジウムの幕が上がった。シンポジストは、田畑泰彦先生（京大）、木下靱彦先生（神歯大）、窪木拓男先生（岡大院）であった。



座長 田畑泰彦先生
魚島勝美先生



木下靱彦先生 窪木拓男先生

田畑先生は、「再生医療の実際と今後の方向性」というタイトルで、頭の前から足の先まで広範な範囲の再生医療を精力的にご講演された。細胞も重要であるが、生体組織の再生誘導が起こりやすいような環境【場】を作るための医工学技術・方法論について熱弁を振るわれた。臨床に上げるという言葉も使われ、目覚しい進歩が明らかとなった。

木下先生は、『Tissue Engineering を応用した下顎骨の再生医療』の演題で、下顎骨の再生のビデオを交えながら、ダイナミックにご講演された。骨形成を導く足場、枠組みは、骨再生後、吸収、消失することが望ましいとの考えから、ポリ-L-乳酸 (PLLA) 製のメッシュを使用した症例を多く供覧された。

窪木先生は、「補綴治療における再生医療のニーズと現時点での研究動向—確実かつ質の高いインプラント治療をめざして—」という題目で、日本歯科補綴学会の代表としてご講演された。補綴に関連した再生医療の研究動向をご自身の研究を中心としてレビューされ、新しい補綴学を担う研究活動の方向性を提示された。

講演後は、高い関心もたれている、歯根膜の再生、歯根の形状、力と組織、ストレス応答など

について、座長の魚島先生から講師の先生方に質問をなげかけ、また、フロアからいくつかの質問がなされ、有意義な討論の時間であった。

夢にあふれたテーマであり、臨床的、補綴学的に問題をさらに明確にして、境界領域への積極的なアプローチも必要と提言され、時間の経過を感じさせない有意義なシンポジウムであった。

(広報 貞森)

臨床教育研修「補綴臨床でどのような点に過ちを起しやすいか？」

渡邊文彦先生（日歯大新潟）を座長として臨床教育研修が開催され、倉澤郁文先生（松歯大）、川良美佐雄先生（日大松戸）、高橋 裕先生（福歯大）の3名が「補綴臨床でどのような点に過ちを起しやすいか？」についてご講演された。

はじめに倉澤先生は「歯冠修復における治療計画」と題して、歯冠修復後の修復物や周囲組織の経年的変化と対応について論じられた。支台歯形成、デンタルX線写真、プロビジョナル・レストレーションの活用、レジンによる支台築造、オールセラミックス、失活歯の破折をキーワードに、それぞれを丁寧に説明された。

次に川良先生は「総義歯における床辺縁形態と顎対向関係位の設定」と題して、総義歯治療で過ちを起しやすいため印象採得と咬合採得に焦点を絞り、実際の臨床例を供覧しながら論じられた。印象採得については予備印象が重要で、スタディモデルからファイナルを読み取る床外形のイメージと、頬棚を支持域としたイメージの大切さを強調された。また、咬合採得については下顎前方偏位への注意、ゴシックアーチの応用や習慣性のタッピングポイントについて説明された。

最後に高橋先生は「有床義歯の諸性質と予後管理」と題して、レジン床の変形と接着については実際の数値や手法を交えながら、また予後管理については長期管理をしなかった症例ときちんとリコールを受けた症例を供覧、対比させながら講演された。そして責任をもって予後管理を行うことの重要性を、義歯装着時が完成時ではないこと、義歯調整終了時が治療終了時でないこと、患者が感じるいい状態が術者のみでいい状態ではないことという言葉で強調された。

以上、いずれの先生もポイントを簡潔にまとめ症例を交えながらの講演だったので、若い補綴医にとって理解しやすく、日常臨床で起しやすい過ちとその回避について勉強になったであろう。

(広報 松山)

認定医研修「補綴治療の予後に直結する落とし穴—補綴装置と二次齶蝕—」

学術大会に引き続き日曜日の午前中に認定医研修が開催された。「補綴治療の予後に直結する落とし穴」3回シリーズの2回目で、前回の〔補綴治療と歯根破折〕に続き、今回は〔補綴装置と二次齶蝕〕というテーマで行われた。まず座長の小出 馨先生（日歯大新潟）よりテーマについての説明をいただいた後に3人の先生に講演をいただいた。



本橋先生(左上)、豊島先生(右上)、武内先生(下)

最初に本橋正史先生（日大衛生）が、「二次齶蝕研究の文献的考察と将来展望」という演題で、これまでに報告された二次う蝕に関する文献の紹介、日本における二次う蝕研究に関する現状などについて講演された。日本では北欧などに比べてこの分野の取り組みが遅れており、これから充実が期待される場所であるとのことであった。

次に豊島義博先生（第一生命日比谷診療所）からは「二次う蝕のガイドライン」という演題で、ネットで利用できる有用なサイトの紹介や、ご自身の体験から学んだ優れた文献の検索方法と文献の応用方法などについて講演された。またGoogleの有効な活用方法など、すぐにでも使えるちょっとした小技の紹介にうなづく参加者も多くみられた。

最後に武内博朗先生（国立保健医療科学院）からは、「う蝕と歯周病（微生物学的）のリスク低減治療—3DSによる病原口腔微生物の制御—」という演題で、徹底的なバイオフィilm除去のあと消毒剤を用いて良質な口腔細菌叢へと移行させる3DSの有効性について、実際の手順や経過について講演された。二次う蝕に限らず矯正治療によるカリエス傾向の上昇が懸念される場合などにおいて、この3DSという方法は非常に有効であるという印象を受けた。また実際にこの3DSを体験された豊島先生からも、良好な口腔細菌環境が維持されているというコメントの紹介があっ

た。

講演後の質疑でも活発な討論が行われたが、なかでも二次う蝕の予防や早期発見には定期的な追跡が必要であり、小児歯科だけでなく成人においても定期的な検診の呼びかけが重要であるとのことであった。

次回の学術大会時に開催される認定医研修ではシリーズ3回目で〔補綴治療と歯周疾患〕というテーマで行われる予定である。

また今回も認定医研修と同じ時間には認定医ケースプレゼンテーションが行われたが、応募は1件のみと少なく、今後への課題と思われた。

(広報 諸井)

課題口演受賞者

1-1-2 象牙質再生に向けての分子生物学的研究—Sonich edgehogによる象牙芽細胞の分化促進—

○**完山 学**, 矢野貴子, 大野充昭, 園山 亘, 窪木拓男 (岡大院)

1-1-3 骨髄由来幹細胞は遺伝子群の選択的抑制を介して分化する

○**江草 宏**, 西村一郎*, 松香芳三*, 矢谷博文 (阪大院, *UCLA)

1-1-5 多血小板血漿の骨リモデリングへの影響に関する検討—骨形成, 骨吸収の観点からみた *in vitro* の研究報告—

○**荻野洋一郎**, 鮎川保則, 古谷野 潔 (九大院)

1-1-9 咀嚼運動のリズムと経路の安定性の主成分分析による咀嚼機能の評価

○**志賀 博**, 小林義典, 横山正起, 大迫千穂, 佐藤晃夫 (日歯大)

1-2-3 咀嚼と咀嚼能力の相違が胃排出速度に及ぼす影響

○**水戸祐子**, 服部佳功, 渡辺 誠 (東北大院)

1-2-8 マウス骨芽細胞様細胞に持続的圧縮力を加えた時の遺伝子発現の動態

○**長尾大輔**, 渡邊 恵, 友竹偉則, 吉嶋佑佳, 川本苗子, 市川哲雄 (徳大院)

デンツプライ賞受賞者

1-3-10 三次元有限要素法によるオーバーデンチャーの応力解析—補強構造が顎堤粘膜

の応力分布に及ぼす影響—

○**権田知也**, 董 堅, 海野哲朗, 五十嵐友紀, 池邊一典, 野首孝祠 (阪大院)

1-3-11 隣接面板とレストの配置が義歯床の変位に及ぼす影響

○**海野哲朗**, 権田知也, 董 堅, 池邊一典, 野首孝祠 (阪大院)

1-3-17 チタン上での骨芽細胞分化過程におけるMAPKカスケードの関与

○**波多賢二**, 和田誠大, 池邊一典, 野首孝祠 (阪大院)

2-3-2 陽極酸化と水熱処理によりチタン表面に析出したハイドロキシアパタイト結晶の解析

○**中里好宏**, 武部 純, 石岡道久, 石橋寛二 (岩医大)

2-3-6 歯牙喪失ラットにおけるテタヌス刺激による海馬グルタミン酸変動

○**奥田恵司**, 山本さつき, 井上 宏 (大歯大)

2-3-15 口腔立体認知能と咀嚼能率との関係

○**雨宮三起子**, 池邊一典, 古谷暢子, 森居研太郎, 吉仲正記, 松田謙一, 野首孝祠 (阪大院)

アンケート報告

第112回学術大会時に配布されたLetter for Members 秋特別号の切り離しアンケートに寄せられた意見を以下に示す。

学術大会に関するご意見

- 今回は第1会場が広すぎて第2会場がメイン会場の広さに適当と思われた。
- ポスター会場はもう少し広くしてほしい。ポスターの前に人の輪ができてもしっかり通れるスペースができるぐらいの会場にして欲しい。
- 一般口演発表で質問2分は短い。
- 課題口演の発表時間10分は長いのではないか。
- スライドの質が低いものが多い。
- ベストプレゼンテーション賞を作ってはどうか。
- シンポジウムIは非常に良かった。
- 認定医研修の講演内容で、すばらしいものがあった。

日本補綴歯科学会に対するご意見・ご希望

- 認定医の更新の条件に、学会発表・論文発表が必須になっているが、大学を離れた開業医にとっては難しい条件である。医科の学会などは必須になってなく、研修会参加が条件となっているところが多いと思われる。法人化に伴い、また研修医の義務化もあり、更新の条件を再検討してもらいたい。認定がなくとも研修医の指導医には講習を受ければ7年以上の臨床経験で可能であり、更新をもっとしやすくして優秀な補綴認定医を減らすべきではない。
- 大きな学術大会が年1回になることを考え、認定医更新の基準から口演やポスターなどの発表という規定をなくし、出席を重視して更新できるようにして欲しい。大学在籍中は発表や共同演者になるが退職し、開業医になるとこの点が不利になり更新をあきらめる先生が多い。
- 112回学術大会の認定医申請ケースプレゼンテーションは1演題、認定医申請・更新のハードルが高すぎるのでは（同様の意見数人あり）。
- 認定医の審査を支部会中心にすると一定の質の確保が困難→不合格にできない。
- 評議員会でもっと実質的な議論が必要では？

広報委員会に対するご意見・ご希望

- 広報委員会はとてもいい活動をしている。ますますの充実を期待する。

支部活動トピックス

東北・北海道支部 第30回記念大会

東北・北海道支部会は昭和44年に設立されてから今回で30回を迎えた。これを記念して、第30回記念大会が石橋寛二大会長（岩医大）のもと、平成16年9月11日（土）、盛岡市のホテルメトロポリタン盛岡で開催された。記念大会の特別企画として、「今後の東北・北海道支部学術大会に向けて—30年の足跡から探る—」と題したパネルディスカッションが行われた。座長は平井敏博先生（北医大）が務め、支部会顧問の内山洋一先生、鹿沼晶夫先生、坂口邦彦先生、田中久敏先生および副会長の赤川安正先生（広大院）がパ

ネラーとなって、支部会のこれまでを振り返り、今後のあり方に対して討論が行われた。討論には、木村幸平支部長（東北大院）と石橋寛二大会長が加わり、さらに懸田利孝先生、片岡保夫先生もフロアーから参加した。1時間という短い時間ではあったが、30年を一区切りとして、さらなる発展を期待したいという言葉で特別企画を結んだ。



パネルディスカッションのパネラーの先生方

(清野和夫 奥羽大)

認定医研修機関（乙）紹介

敬天堂歯科医院

Letter for Members で認定研修機関（乙）取材報告を企画して、3施設目である。今回は静岡市の敬天堂歯科医院、蒔田真人院長にお話しをおうかがいした。



敬天堂歯科医院 蒔田真人先生

インタビュー（イン）：まず、貴研修機関の概要を教えてください。

蒔田院長（蒔田）：敬天堂歯科医院は今から25年前（S54年）、オーラル・リハビリテーションを中心に治療を行う、地方都市としては全く新しいタイプの研修歯科診療所として開設されました。当初は、院長のほか、研修歯科医師2名、歯科技工士2名、歯科衛生士4名、受付1名の10名のスタッフで発足しましたが、年々拡張・充実をはかり、現在はJR静岡駅をはさんで南北2つ

の診療室をもち、研修医 10 名、スタッフ総数 30 名以上の大所帯となりました。この間、3～10 年の研修期間を終了した歯科医師は 23 名を数えます。

イン：それでは、教育方針と実践内容について教えてください。

蒔田：当院では、ほとんどの研修医が卒直後からの研修となるため、技術的な教育はもちろんのこと、社会人としての責任を自覚し、「歯科医師である前に人間であれ」をモットーに、患者の痛みのわかる人間性豊かな歯科医師の育成に努めています。最終的には、全顎を 1 つの器官として診断し治療し、「咬合の再建」ができる能力を身につけるため、歯内療法、歯周治療はもとより、M.T.M、アタッチメント・デンチャー、インプラント治療などをマスターすることを目標としています。そのために初診時、治療経過、治療終了時、リコール時の口腔内写真、デンタル・レントゲン写真を撮影し、週数回の症例検討会、月 1 回のコ・デンタルを含む院内研究会、毎月のスタディクラブ参加に活用しています。現在、そのスライド数は 8 万枚以上、最長 25 年の種々な症例の経過を観ることが出来ます。

本院の特徴として、研修 3～5 年目で補綴歯科学会、顎咬合学会、口腔インプラント学会などでの発表を指導しているので、25 年前の最初の研修医から全て学会発表の経験をもち、日本補綴歯科学会認定医も 6 名を数えます。当院で過去に行った発表演題数は、日本補綴歯科学会総会および支部総会、日本顎咬合学会、日本口腔インプラント学会総会および支部総会、そのほかの学会合わせて 130 演題以上となります。

イン：最後に、補綴医を目指す全国の若い先生方にメッセージをお願いします。

蒔田：卒直後のトレーニングが重要です。良くも悪くもこの時期に歯科医師としての自分の方向が決定されます。「温故知新」、最新の情報だけでなく、どういう経緯でここにいたったかを知ることが必要です。そのためには毎日、専門誌を読んで知識を蓄え、特に論文最後の参考文献は必ず調べて目を通すことが大事です。

イン：お忙しい中、ご協力ありがとうございました。



スタッフの皆様

(広報 松山)

会員の声

第 111 回デンツプライ賞受賞者の声



Rezwana Binte Anwar

Div. of Removable Prosthodontics Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences

The 111th scientific meeting of the Japan prosthodontic society was a memorable meeting for myself. I presented my own research in poster form. My topic was, "Observation of Microstructural Changes in the Molar Alveolar Bone of Ovariectomized Monkeys". I expect this research could elucidate the relationship between the microstructural fragility of alveolar bone and tooth loss.

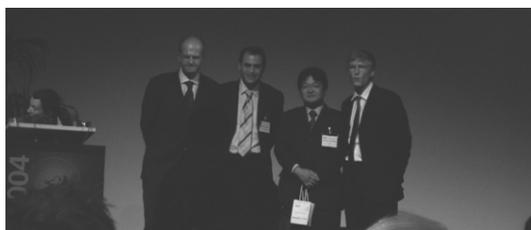
This is the first time I have ever participated in such a big conference and that's why I worked hard to get my best. I was really excited and surprised when I heard the news that I was selected for the "DENTSPLY Merit Award, 2004". I am sure this award will not only further enhance my motivation towards better research but also influence other researchers to do their best. Finally, I would like to express my kind gratitude to Prof. Shoji Kohno and Dr. Mikako Tanaka and also Dr. Sadakazu Ejiri. Without their help, it was not possible to do such a good research.

EAO Best Oral Award 受賞者の声

鮎川保則

九州大学大学院歯学研究院
口腔機能修復学講座
咀嚼機能再建学分野

本年9月16日から18日にかけてパリで開催されたEuropean Association for Osseointegration (EAO) 13th Annual Scientific Meetingにおいて発表した“Simvastatin stimulates osteogenesis around titanium implants in osteoporotic rat”がBest Oral Awardを受賞しましたので報告いたします。



著者は右から2人目

本学会は1991年に発足し、今年で13回目と歴史が浅い学会です。私は1999年の第8回大会(コペンハーゲン)に参加、そのときは比較的にじんまりしている学会だなどの印象でした。今年は5年前とは大きく様変わりし、2,600名の有料参加者を数える大学会となっていました。ヨーロッパの学会とはいえ、United Statesと書かれた名札をしている参加者も多く、それにも増してアジア人の多数参加が目につきました。5年前はアジアからは日本人グループだけでしたが、本学会もこの分野のトップの学会のひとつとして急速にグローバル化してきたようです。学会開催地がパリであることも参加者増加の一因となったことは想像に難くないですが。

学会はパリの市内中心部から地下鉄で1時間以上かかるディズニーランドに隣接するホテルで開催されました。日本と違いパリのディズニーは比較的閑散としていて、それだけに学会に集中して盛り上がることができました。

学会は、初日、2日目、3日目の午後がシンポジウムのみ、3日目の午前中のみ一般演題とシンポジウムという構成になっていました。一般演題は、学会によると205演題が申し込まれ、160演題がアクセプトされたようです。そのうち、抄録による審査で上位10演題がResearch competition部門で口演、あとの150演題がポスター発表となりました。日本からの演題は13題でした。

10演題のResearch competition部門にアジアからは私と名古屋大学口腔外科の山田先生、韓国のMun先生の3人の演題が採択されました。Research competitionと銘打っているだけあって通常の学会発表とは異なり、6名の審査員がいて厳しい質問を浴びせてきます。しどろもどろになりながらどうにか質疑応答を切り抜けると、午後のセッション開始直前にメインホールで受賞者発表と表彰式がありました。Best Oral Awardは、私と英国の演題の2つが選ばれ、ポスターからもひとつBest Poster Awardが選ばれました。多少拍子抜けしたのは、受賞プラークや賞状の類は一切なく、そういう意味で私が受賞した証拠は現在まったくありません(ただし副賞はいただきました)。受賞の予感、本人・同行した後輩たちにもまったくなく、青天の霹靂でした。研究指導をいただいている古谷野 潔教授はじめ、日本補綴歯科学会の先生方のご指導の賜物であると、この場をお借りして深くお礼申し上げます。

関連学会報告

第17回日本顎関節学会学術大会

第17回日本顎関節学会学術大会が平成16年7月4日(日)、5日(月)会期で、河野正司教授(新大院)を大会長として新潟コンベンションセンター朱鷺メッセで開催された。

演題発表は一般口演62題(うち外国参加3)、ポスター84題(うち外国参加8)の計146題に加え、特別講演2題、シンポジウム2題、歯科医師フォーラム2題、学術奨励受賞演題2題と盛りだくさんの企画であった。

特別講演の1つ目は、「磁気共鳴を用いた脳機能研究の最前線」と題し、藤井幸彦先生(新大脳研究所統合脳機能研究センター)が、2つ目の特別講演は「顎口腔領域の筋緊張異常に起因する疾

「GC」



**柔らかいまま & 清潔なまま
盛りやすい & はがしやすい**

審美性に優れた「ライブピンク」と
厚みの差を判別しやすい「ホワイト」の2色。

医薬品登録番号 21500BZ00410000号

独自の特殊構造とコート材により従来の弱点を克服!

柔らかさが、かつてないほど持続します。	スピーディに盛り上げられます。
良好な表面性状、清潔な状態を保ちます。	スムーズにはかせます。

コート材でしっかり撥菌。

暫定裏装用レジン
ジーシー ティッシュコンディショナー

患の病態と治療—とくに睡眠呼吸障害と運動異常症について—』と題し、吉田和也先生（京大院医学研究科感覚運動系外科学講座口腔外科学分野）が講演された。

以下 企画のおおののテーマを示す。

シンポジウム1「顎関節の運動学の最前線」

シンポジウム2「顎機能障害の保存療法の最前線」

歯科医師フォーラム1「顎関節症と学校健診」

歯科医師フォーラム2「顎関節症と随伴症状」

学術奨励賞受賞講演

いずれのテーマに対しても活発な討議がなされ、また歯科医師フォーラムも夜遅くまで熱心な参加者があった。

会場は信濃川河畔にある最近建設された施設で、ホテルに隣接し、佐渡航路のターミナルと接続してる洒落た施設であった。観光船の乗り場も会場にあり、通路デッキからの眺めも楽しめた。

(小林 博 新大院)

第15回日本老年歯科医学会

残暑厳しい9月18日（土）、19日（日）、かごしま県民交流センターに於いて長岡英一大会長（鹿大院教授）のもと、第15回日本老年歯科医学会総会ならびに学術大会が開催された。

特別講演として元鹿児島大学学長の井形昭弘先生（名古屋学芸大学学長）が「長寿社会における健康」と題して現在の高齢化社会への流れを、ご自身の研究者としての歴史を織り交ぜながら講演された。シンポジウムI（座長：市川哲雄教授（徳大院））では「口腔ケアは老人医療を変えることができるか」というテーマで角 保徳先生（国立長寿医療センター）が「口腔ケアのシステム化とその有効性」、米山武義先生（米山歯科クリニック、静岡県）が「誤嚥性肺炎予防の総合戦略における歯科の役割」、館村 卓先生（阪大院顎口腔機能治療学）が「癌患者の社会復帰の支援、口腔癌から食道癌まで」とそれぞれの専門分野から独自の切り口でご講演された。

「喫煙と健康」と題する教育講演・市民フォーラム〔座長：新庄文明先生（長大院口腔保健管理学）〕が開催され、中村正和先生（大阪府立健康科学センター）が「知られざるタバコ公害の真実」、市来英雄先生（市来歯科医院、鹿児島市）が「喫煙は、口腔にも大きな害発生」とタバコの有害な点と世界各国の状況を具体的な事例を挙げ、さらに現在問題となっている受動喫煙に関してデータを提示されてお話しされた。私の周囲に

いる愛煙家には耳の痛い講演であり、タバコ業界の体質を垣間見ることができた。

シンポジウムII〔座長：野村修一先生（新大院）〕として「摂食・嚥下リハビリテーション—ヒトとしての尊厳を保つために—』というテーマで、以下の3人の先生が講演された。角町正勝先生（角町歯科医院、長崎市）「あきらめないで口から食べる—急性期からのかかわり—」、本多知行先生（佐賀社会保険病院リハビリテーション科）「摂食・嚥下障害のリハビリテーション—回復期における現状と問題点—」、牛山京子先生（日本歯科衛生士会監事）「在宅で最後まで食べたい」。

今回の学会で好評だったのが2日間とも開催されたランチョンセミナーである。ランチョンセミナーIは「口腔ケアの効果を考える」、ランチョンセミナーIIでは「NST（栄養サポートチーム）と口腔ケア」と題して行われた。

会場は満席で立見が出るほどの盛況であった。各セッション後に廊下などで多くのディスカッションが行われ、大会は盛会裡に幕を閉じた。

(広報 北川)

第34回日本口腔インプラント学会

9月25日（土）、26日（日）に、大阪の中之島の大阪国際会議場（グランキューブ）において、近畿北陸支部が主幹し阪大歯学部病院口腔総合診療部が事務局（大会長：前田芳信、事務局長：十河基文）となって標記学会を開催し、一般ならびに課題口演216題、認定医ポスター69題、市民フォーラム、特別講演、シンポジウム、歯科技工士セッション、歯科衛生士セッションなどのプログラムに国内外を合わせて約2,100名の参加者が集まった。



本学会のメインテーマは「先進展開するインプラント治療—インターディシプリナリー治療領域への拡大」であり、インプラントを介在して外科、補綴、歯周、矯正の各分野がいかにか結びついているか、その連携をどのようにすれば効果的

か、などが論じられた。

演者には学際的な治療を積極的に進めている著名な臨床家とそのグループ（JIADS：小野善弘、中村公雄、前田早智子、宮本泰和の各先生ならびに SJCD：山崎長郎、鈴木真名、菊池薫、土屋賢司の各先生）、さらにアメリカの Edward P. Allen, Richard Roblee の両先生をお願いした。特に2日目の補綴、歯周、矯正を担当する専門医が複数で講演する形は、学会のシンポジウムでは新鮮なものではなかったと思われる。

また特別講演では、スイス・チューリッヒ開業の Ueli Grunder 先生から、インプラントによる修復を審美的に行うために必要な骨と軟組織の augmentation についての解説、また韓国の San-Wang Shin 教授からは、即時負荷をはじめとする最近のインプラントに関する話題についての解説があった。

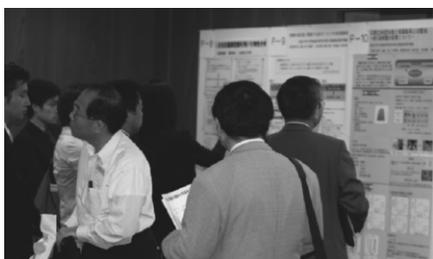
なお、本学会では特別講演、シンポジウムはすべて日英の同時通訳を設定した。その結果、海外からの参加者からは日本の臨床、特にインプラントを中心とした治療のレベルが非常に高いことが理解できたとの評価が得られたことは成果のひとつである。

今回の学会ではさらに、参加者がポスターならびに協賛会員の展示会場での懇親会に気楽に参加できる形としたことで、さらに活気ある学会となった。

(前田芳信 阪大歯学部附属病院)

第15回日本咀嚼学会学術大会

列島縦断台風一過の晴天に恵まれた9月30日から10月2日まで、東京市ヶ谷日本大学会館において小林喜平大会長（日大松戸教授）のもと、第15回日本咀嚼学会学術大会が開催された。大会テーマを「咀嚼と消化・吸収—「国際コメ年」によせて—」とし、特別講演2題、シンポジウム3本および一般演題（ポスター発表）という内容が組まれた。



ポスター会場

特別講演 I の足立己幸先生（女子栄養大教授）

は「ごはんと健康—食生態学から」と題して、「ごはんは本当によい食べ物なの？」という小学生の質問から出発した食教育・食育の実践展開について、また特別講演 II の中澤文子先生（共立女子大名誉教授）は「食品の咀嚼と嚥下のレオロジー」と題して食品の咀嚼と食塊の嚥下を口腔・咽頭で測定した試みについて、講演された。

シンポジウム I（座長：山田好秋先生/新大院）のテーマ「咬合・咀嚼と脳」では、高野喜久雄先生（総泉病院院長）は「痴呆とは」、渡辺 誠先生（東北大院）は「歯と痴呆」、泰羅雅登先生（日大総合科学研究所）は「咀嚼と脳」と各専門分野から臨床および研究を通じた切り口でご講演された。

シンポジウム II（座長：神山かおる先生/独立行政法人食品総合研究所）のテーマ「咀嚼とごはん」では、高谷友久先生（大阪市立大）は「新しい米飯のテクスチャー測定法の研究」、塩澤光一先生（鶴見大）は「米飯の物性が人の咀嚼行動に与える影響」、今井敦子先生（大歯大）は「ごはんを用いた咀嚼機能検査法」、畑江敬子先生（お茶の水女子大）は「高齢者の口腔内状態とごはんの咀嚼」、渡辺紀之先生（亀田製菓株式会社）は「食べやすい米飯製品の開発」と幅広い分野からそれぞれの視点でご講演された。



シンポジウム I 演者

シンポジウム III（座長：野首孝祠先生/阪大院）ではテーマ「健康とごはんの消化・吸収」について、坂田 隆先生（石巻専修大）は「ごはんは大腸機能」、松田秀人先生（名古屋文理短期大学）は「咀嚼がインスリン分泌に及ぼす影響」、柳沢幸江先生（和洋女子大）は「ごはん食のかみ方と食後の血糖・インスリン反応」、杉山みち子先生（神奈川県立保健福祉大）は「ごはん食と Glycemic Index」とそれぞれごはん摂食後の知見についてご講演された。

最終日午後には「公開フォーラム」（司会：小林義典教授/日本咀嚼学会理事長）が併催され、「咀嚼が創る健康長寿として—国際コメ年によせて—」と題し、安田和人先生（前女子栄養大教授）「咀嚼と微量栄養素の消化・吸収—新しい栄

養素入りガム」, 坂田利家先生 (中村学園大)「ごはんをしっかり噛んで肥満症を予防しよう」, 黒田留美子先生 (介護老人保健施設ひむか苑)「口からおいしく味わって食べることが寝たきりを予防する」, 丸茂ゆきこ先生 (丸茂病院)「日本人の伝統食と現代人の薬食同源」, 鈴木敏之先生 (全国料理学校協会)「ごはんのレシピ, 12カ月の工夫」, 沖本公繪先生 (九大院)「おいしく食べられる人は元気に老いる」の6人の先生方がご講演され, 一般市民の方多数が聴講され, 講演後も会場から活発な質問が寄せられ, 時間を30分延長するなか, 大会は盛会のうちに幕を閉じた。

(河相安彦 日大松戸)

支部会報告

東北・北海道支部

平成16年9月11日(土)に盛岡市のメトロポリタン盛岡で開催された第30回記念大会(石橋寛二大会長, 岩医大教授)では, 一般演題はポスター発表19題, 認定申請ケースプレゼンテーションは4題あり, 会場では活発な討論がなされた。企画としてシンポジウム, 特別講演, 生涯学習公開セミナーが行われた。

シンポジウムは「咬合を語る—この30年間で浮き彫りになった問題点とその解決策を探る—」と題し, 石橋寛二大会長の座長のもと3名のシンポジストが咬合をあつく語った。佐々木啓一先生(東北大院)は, 「加齢とともに移ろいゆく咬合の理解と対応」と題し, 多様な部分欠損歯列症例の咬合診断ならびに付与すべき咬合の指針は必ずしも明確に呈示されていないとして, 知識・体験の統合と体系化および症例報告の積み重ねが重要であると語った。藤澤政紀先生(岩医大)は, 「う

つろな咬合を呈する症例の心身医学的背景」と題し, 客観的な咬合検査結果と患者の訴える主観的評価が一致しないことがあり, 対処法の確立には咬合と心身医学との関連についてのEvidenceおよび専門医との協力が必要であることを語った。皆木省吾先生(岡大院)は, 「変化する咬合に対する補綴処置」と題し, 複雑化した症例, 顎位の変化に対応する必要がある症例あるいは顎運動に対する微細な適合性が必要とされる症例では, 一度に咬合を決めつけることはせずに, 2回鑄造法を応用して再現の基準を明確にすることが大切であると語った。

特別講演は「脳機能研究の最前線—どうやって脳の老化に勝つ—」をテーマに, 加藤俊徳先生(濱野生命科学研究所)により行われた。加藤先生は昭和大学大学院医学研究科を卒業後, 国立精神神経センターで, 光脳機能画像法の基本原理を最初に発見した研究者である。講演では, MRIは脳を一生の中で捉えて計測することが可能となり, 脳の老化に勝つには脳の神経と神経を連絡する白質線維連絡が焦点になること, 光脳機能画像法はベッドサイドでリアルタイムに脳機能を観察することができ, この脳の働きを計測して教育や生活に役立てようとしていることなどについて解説した。

今回から, 生涯学習公開セミナーが併催された。メインテーマは「前歯部に求められる歯科審美の最前線」で, 座長は清野和夫先生(奥羽大)が務めた。富士谷盛興先生(広大院)は, 「前歯部MI審美修復の現状」と題し, 保存修復学の立場からMIの考え方や沢山の臨床例を示し, 被着面に合わせて接着剤を正しく選択することの大切さを強調した。宮内修平先生(大阪府開業)は「前歯部審美の臨床」と題し, 審美歯科に求められる, 支台築造, 支台形態, プロビジョナルレストレーションの大切さと多くの臨床例を呈示した。一般演題はポスター発表19題, 認定申請ケースプレゼンテーションは4題あり, 会場では活発な討論がなされた。

(清野和夫 奥羽大)

関連学会案内

第14回日本有病者歯科医療学会総会

開催日: 平成17年3月12日(土), 13日(日)
 会場: 愛知県歯科医師会館
 大会長: 鈴木俊夫先生(鈴木歯科医院, 名古屋市)
 テーマ: 「安心と安全な歯科医療の推進」

Tokuyama Dental
「ソフト感の持続」と「タフな接着」を両立!
 義歯床用長期弾性裏装材(直接法/間接法)
ソフリライナータフ
 ●●●●●●●●●●
 歯に優しく
 耐久性を
 プラス
 あ! 痛くない!
 標準医院価格 ¥18,000/セット
 医療用具承認番号 21400BZZ00297000
 ※専用ディスプレイ「トクヤマディスプレイ」は別売です。
 製造・販売
 株式会社 トクヤマデンタル <http://www.tokuyama-dental.co.jp>
 インフォメーションサービス ☎0120-54-1182
 受付時間(土・日祭日を除く) 10:00~12:00 13:00~16:00
 ●札幌 TEL 011-850-2340 ●仙台 TEL 022-717-6444
 ●東京 TEL 03-3835-7201 ●名古屋 TEL 052-932-6851
 ●大阪 TEL 06-6386-0700 ●福岡 TEL 092-412-3240

連絡先：

〒464-0071 名古屋市千種区若水3-10-23
青柳歯科医院内
第14回日本有病者歯科医療学会総会事務局
TEL：052-711-1494, FAX：052-723-2854
E-mail：yb@s.email.ne.jp
http://www.ne.jp/asahi/youbyou/sika/
※問合せはFAXまたはメールにてお願いします。

次回学術大会案内

第113回日本補綴歯科学会学術大会

開催日：平成17年5月14日(土)、15日(日)
会場：グランキューブ大阪(大阪国際会議場)
大会長：野首孝祠教授(大阪大学大学院)
メインテーマ：「咬合・咀嚼が創る健康長寿」
大会ホームページ：
<http://www.dent.osaka-u.ac.jp/~prost2/113jpd/s/>

☎ ニュース 第113回学術大会課題口演テーマ

1. 咀嚼・嚥下機能
2. 発語機能
3. 咬合と全身
4. インプラント
5. バイオテクノロジー
6. 新材料
7. バイオメカニクス
8. 審美
9. 補綴臨床疫学・EBD

今後の学術大会案内

第114回日本補綴歯科学会学術大会

開催日：平成17年10月1日(土)、2日(日)
会場：朱鷺メッセ

NC VERACIA

ナノテクノロジーと
機能的形態が融合した 新人工歯 **硬質レジン歯**

NC Veracia

医療用具承認番号 21100BZZ00751

NC ベラシア アンテリア

硬質レジン歯(前歯用)1組…¥780 色調：A1、A2、A3、A3.5、B2
形態：上顎5形態、下顎3形態

医療用具承認番号 21200BZZ00272

NC ベラシア ポステリア

硬質レジン歯(臼歯用)1組…¥1,040 色調：A2、A3、A3.5、B2
形態：上下顎各2種

価格は2002年11月現在の標準医院価格(消費税抜き)です。

SHOFU 世界の歯科医に貢献する
株式会社 松風
本社〒605-0983京都市東山区福福上高松町11-TEL(075)561-1112(代)

大会長：河野正司教授(新潟大学大学院)

第115回日本補綴歯科学会学術大会

開催日：平成18年春
大会長：平井敏博教授(北海道医療大学)

生涯学習公開セミナーおよび 市民フォーラム案内

生涯学習公開セミナー

関西支部

- 開催日時：平成17年1月22日(土)13:30~16:00
- 開催場所：大阪府歯科医師会館(大阪市)
- テーマ：「高齢者歯科治療の現在」
 - 1) 中尾勝彦先生(尾道市開業、中国・四国支部支部長)
 - 2) 小正 裕教授(大阪歯科大学高齢者歯科学講座)

西関東支部

- 開催日時：平成17年1月23日(日)午後
- 開催場所：神奈川県歯科医師会館
- テーマ：「支台築造の新しい考え方」
 - 1) 福島俊士教授(鶴見大学)
 - 2) 塩野英昭先生(東関東支部)

東京支部

- 開催日時：平成17年2月27日(日)午前
- 開催場所：日本歯科大学富士見ホール

市民フォーラム(市民公開講座)

東京支部

- 開催日時：平成17年2月27日(日)午後
- 開催場所：日本歯科大学富士見ホール

支部会案内

関西支部

開催日：平成17年1月23日(日)
会場：大阪府歯科医師会館

連絡先：担当・井上雅裕

〒540-0008 大阪市中央区大手前1-5-17
大阪歯科大学附属病院 口腔インプラント科内
日本補綴歯科学会関西支部事務局
TEL：06-6910-1089
E-mail：inoue-mh@cc.osaka-dent.ac.jp

東京支部

開催日：平成 17 年 2 月 26 日（土）
会 場：日本歯科大学 富士見ホール
大会長：新谷明喜教授（日本歯科大学）

西関東支部

開催日：平成 17 年 3 月 5 日（土）
会 場：鶴見大学

東関東支部

開催日：平成 17 年 3 月 20 日（日）
会 場：水戸プラザホテル
大会長：會田雅啓教授（日大松戸）

連絡先：担当・若見昌信
〒 271-8587 千葉県松戸市栄町西 2-870-1
日本大学松戸歯学部歯科補綴学第二講座
TEL：047-360-9383, FAX：047-360-9382
E-mail：jpbs@masucat.nihon-u.ac.jp

認定医関係記事

日本補綴歯科学会指導医

() 内は支部名

片桐 慎吾：日本歯科大学歯学部（東京）
鈴木 満：厚木みどり歯科（東京）
羽毛田 匡：東京医科歯科大学歯学部附属病院（東京）
井野 智：神奈川歯科大学（西関東）
渥美美穂子：神奈川歯科大学（西関東）
田中 欽也：神奈川歯科大学（西関東）
野村紀代彦：医療法人至誠会二村医院（東海）
安井 栄：大阪大学歯学部附属病院（関西）
森 慎吾：しんご歯科（中国・四国）
熊谷 宏：熊谷歯科クリニック（中国・四国）
阿部 泰彦：広島大学医学部・歯学部附属病院（中国・四国）
松山 美和：九州大学大学院歯学研究院（九州）

日本補綴歯科学会新規認定医

() 内は支部名

國安 宏哉：北海道医療大学歯学部（東北・北海道）

井上 敬介：東京歯科大学（東関東）
三澤 弘子：松本歯科大学病院（東海）
山内 英嗣：徳島大学医学部・歯学部附属病院（中国・四国）
松香 芳三：UCLA 歯学部（中国・四国）
峯 篤史：岡山大学大学院医歯学総合研究科（中国・四国）
山中 威典：広島大学大学院医歯薬学総合研究科（中国・四国）
竹内 真帆：広島大学大学院医歯薬学総合研究科（中国・四国）
完山 学：岡山大学大学院医歯学総合研究科（中国・四国）
小池 麻里：長崎大学大学院医歯薬学総合研究科（九州）
井手 孝子：長崎大学医学部・歯学部附属病院（九州）
野村 賢介：野村歯科医院（九州）

日本補綴歯科学会認定医更新者

認定期限：2004 年 9 月 29 日
加藤 英材：(医) 華頂会湘南歯科（関西）
認定期限：2004 年 11 月 1 日
山森 徹雄：奥羽大学歯学部（東北・北海道）
山本 昭一：日本大学歯学部（東関東）
松村 英雄：日本大学歯学部（東京）
松本 良治：松本歯科医院（西関東）
濱野 徹：鹿児島大学大学院医歯学総合研究科（九州）
認定期限：2005 年 4 月 20 日
藤本 俊男：藤本歯科長洲医院（東京）
和久田一成：わくだ歯科（東海）
石垣 尚一：大阪大学大学院歯学研究科（関西）
貞森 紳丞：広島大学大学院医歯薬学総合研究科（中国・四国）
認定期限：2005 年 4 月 27 日
古谷 彰伸：勝田台フルヤ歯科（東京）
岩崎 雅充：慶応義塾大学病院（東京）
鈴木 彰：アキラ歯科医院（西関東）
田中 欽也：神奈川歯科大学（西関東）
谷岡 望：谷岡歯科クリニック（関西）
田中 順子：大阪歯科大学（関西）
今井 敦子：(医) 若葉会 今井歯科（関西）

Letter for Members No. 15 2004

Japan
Prosthodontic
Society

日本補綴歯科学会

Japan Prosthodontic Society

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jpds/>

発行人 大山 喬史 編集 広報委員会

事務局 〒170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9 (財)口腔保健協会

Tel 03-3947-8891 Fax 03-3947-8341

平成16年12月10日発行

コンテンツ

第112回日本補綴歯科学会総会報告1,2
第113回学術大会はすべてオンラインで
.....2,3
PRPは電子ジャーナル化へ3
第112回学術大会報告3~7
アンケート報告7,8
支部活動トピックス8
認定医研修機関(乙)紹介8,9
会員の声9,10

関連学会報告10~13
支部会報告13
関連学会案内13,14
次回学術大会案内14
今後の学術大会案内14
生涯学習公開セミナーおよび市民フォーラム
案内14
支部会案内14,15
認定医関係記事15



学会および広報委員会へのご意見 ご要望をお寄せください

日本補綴歯科学会広報委員会

委員長 冲本公繪 副委員長 北川 昇

委員 貞森紳丞, 濱野 徹, 松山美和

幹事 諸井亮司

TEL : 092-642-6371, FAX : 092-642-6374

E-mail : kohojps@dent.kyushu-u.ac.jp

〒812-8582 福岡県福岡市東区馬出3-1-1

九州大学大学院歯学研究院

口腔機能修復学講座 咀嚼機能制御学分野